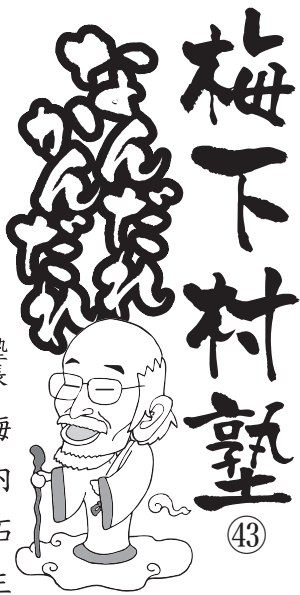


「森と水と命の惑星」国際会議宣言と展開



塾長 梅内 拓生

「森と水と命の惑星」国際会議は立ち上がり三陸、世界に向かってくがさる5月12日(土) 気仙沼ホテル観洋、13日(日) 大船渡市リアスホールにて開催されました。

昨年3月11日、東日本大震災により三陸沿岸地域も未曾有の被害を受け、現在、この苦難を乗り越えて地域の復興を目指すべきさまざまな取り組みが行われています。

振り返るとこの地域は、森林、川、海がひとつとなって、森は木材の供給ばかりでなく、水源の涵養、国土の保護、野生動物の生息環境などの公益機能を持っています。山に降り注がれた雨水は森林を育み、河川を育み、そして海を育みます。即ち、生命の母の水

は森と河川と海と空を巡っています。

三陸海岸地域は4億年以上前に隆起した日本列島最古の地層から出来ており、森、河川、海洋文化を生んだ縄文文化の遺跡がたくさん残っています。東日本大震災は21世紀に生きる為にはすべての事を地球規模の視点から物事を考え進めていく事の大切さを示しました。「森と水と命の惑星」国際会議はこの経験と伝統を世界に発信するため開催され、以下の宣言を行います。

◆「森と水と命の惑星」国際会議宣言

①東日本大震災の甚大な被災を認識し、被災者の忍耐と努力に敬意を抱き、逝去した方々への深い哀悼の心を捧げる。

②国内外からの心温まる支援を頂いたことを認識し、中心から感謝の意を表す。

③21世紀地球文明の限界と問題とこれに対応するための手段を討議し、「歴史と知恵」の「心と魂」を呼び起こし、「森と水と命の惑星」の地域文化を育成し、世界と手をつなぐことの重要性を確認する。

④気仙沼地域と大船渡地域を始め、東日本沿岸地方にはこれに対応するための力が、地域の伝統文化の中に秘められていることを確認する。

⑤科学、宗教、芸術、政治、経済などの領域を越えて、地方と世界をつなげる文化価値意識の育成の重要性を確認し、これを共有する。

⑥立ち上がり三陸、世界に向かって。



「森と水と命の惑星」

国際会議の直後の5月24日に東京千代田区の英国大使館で、英国が世界に誇る自然科学雑誌「Nature」が主催する「力の文明」から「いのちの文

明」と題するNature

Cafeが催されました。

私を始め「森と水と命の惑星」国際会議に参加した2人の方々もこのNature Cafeに招待されました。Nature Cafeで討議されたことは、まさに、我々の「森と水と命の惑星」国際会議宣言に記述された内容と一致するものでした。

その中で、注目したことは経済史学文明学領域で活躍し、静岡県知事である川勝平太氏が富士のおわします国を詠んだ静岡県民による富士山万葉集の活動や、日本国際文化研究センター教授の安田喜憲氏が縄文文化が世界の古代文明とつながっている話をしたことでした。

早速、静岡県から富士山万葉集が送り届けられました。東日本大震災の被災地で開催された、「森と水と命の惑星」国際会議宣言は人類の奥の意識に触れるものであり、今後の「文明の命と魂」を育てる一助となることが期待されております。